

平成 28 年度 学校法人 三幸学園 東京ウェディング&ブライダル専門学校 自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 小倉 裕子

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 前田 英里奈

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、ブライダル分野の学校として「最幸の結婚式を通じて日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、ブライダル分野として「最幸の結婚式を創り上げることを通じて、新郎・新婦だけではなく、その家族、その人生も幸せにできる No1 プランナー・コーディネーター」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

本年度は教務の体系化プロジェクトとして、三幸学園の様々な教育を関連付け、体系化をすることで行事ごとの教育効率と役割を明確にした。成功体験や感動体験を繰り返せる教育の仕組みを作りだし、社会が必要とする能力を持った人材の指標となる『経験を積むことで成果を生む望ましい行動特性(=コンピテンシー)』を分析し、「対人基礎力」「対課題基礎力」「對自己基礎力」を身につけることができる教育に取り組んでいる。

① 前年度重点施策振り返り

・SCOUTER パーソナルテスト（潜在的な資質の特性や傾向を明らかにできるもの）

・新入生、新入生保護者会実施（保護者との連携強化）

・スタートアッププログラム（下記の教育コンテンツと連動したプログラム）

・夢のスケッチブック

（原田式メゾットの導入に伴い生徒が毎日持続させることにより主体性や目標の理解、モチベーションアップへつなげるもの）

・未来デザインプログラム

（7 つの習慣を習得する方法を学び、原田式メゾットの導入後に中長期的な目標を達成する事で成功体験からモチベーション維持）

・アクティブラーニングの導入（授業の効果性を高める手法）

・あきらめない教育の浸透（学園の教育特徴や理念と実践の浸透を図る）

② 学校関係者評価委員会コメント

長期休暇後、学年が変わるタイミングでの退学者が多い傾向。また、何となく進路選択を専門学校にしたという生徒もいる為、退学の理由として目標喪失が多いのも特徴のひとつにあげられる。仮に卒業できたとしても長く勤めることが出来ない可能性もある為、学校での指導が重要。もっと学校に通う楽しさや厳しさを感じてもらえるようにする必要がある。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育人人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育人人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4
各学科の教育目標、育人人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

三幸学園の教育の原点は「技能と心の調和」にあり、その中でも特に心の教育が重要になる。教育方法や求める成果は生徒の変化や社会が求めるニーズによって変えていかなければならない。その為、常に「今の社会に必要とされる力」をリサーチし、在校生に対するアンケートで教育成果を確認、全教員にフィードバックし、教員がニーズに合った教育を行う材料として役立てている。それらを踏まえ、入学前に生徒ならびに保護者を対象に説明会を行い、浸透できる仕組みを確立することが課題である。

② 今後の改善方策

新入生の保護者会の際、各担任がクラスの保護者へ対し、意識付けを行う事で心の教育をより浸透する。また、企業訪問を積極的に行う事で、業界のニーズを把握し、人材育成に役立てる必要がある。

③ 特記事項

入学前のオリエンテーション開催。

保護者の方への連絡。

保護者に向けた行事の開催や就職・実習について定期的な保護者通信成績表の送付。

④ 学校関係者評価委員会コメント

新入生対象の保護者会を行うが、全体的に質問等聞きにくい雰囲気があるため、机の配置や人数など検討すると良い。

特にインターンシップ、海外研修等について事前資料に詳細を記載しておく必要がある。

また、定期的な保護者新聞を発送し、学校での状況を伝えると良い。

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	3
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

教育活動の積極的な情報公開
システム化による業務の効率化

② 今後の改善方策

WEBを活用した情報伝達システムの導入によるスタディサプリによる伝達の効率化を推進。

学校 HP では入学希望者への内容が主となっているが、業界・企業向けに教育の課程や成果に対する情報公開を積極的に行う。

③ 特記事項

学生管理システムによる生徒情報・成績管理を行っており、卒業生データも管理している。
学科ごとに教務主任、財務決算の為の責任者を配置している。

④ 学校関係者評価委員会コメント

WEBを活用した掲示板があったことで、求人情報に関してはタイムリーに知る事ができた。
今後、効率化をより高めるため、携帯通信環境を整える必要がある。

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	3
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格(免許)取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

① 課題

企業との連携はあるが、授業カリキュラム内に企業との連携をした授業展開に不足がある。

② 今後の改善方策

学内でも現場と同等の環境で、実務に即した実習を行い、実践力を養う機会が豊富に用意されている。実際の現場で業務に必要な力を総合的に身につける「インターンシップ」はプランナー科のカリキュラムであるが、次年度よりコーディネーター科でも導入する。実践的かつ専門的な職業教育を協議・検討することを基本方針とし、カリキュラム委員会では修正・改善を行う。教職員の教務研修やOJT指導者の配置など人材育成にも取り組んでいる。

③ 特記事項

ウェディングプランナー科ではインターンシップを実施している。

教員業務スキルアップ研修の実施。

教員リーダーシップ研修の実施。

④学校関係者評価委員会コメント

より現場のニーズを知る為、企業ガイダンスだけではなく、授業の中で企業との関わりが必要。
また、両学科にインターンシップを導入することで、学校とは違う現場の経験を学ぶことができる。
ただ、自身の目標と現場のギャップを感じ大変と感じてしまう傾向がある為、学校としてそれ以上の感動や、やりがいがあるという事を教える事が必要。

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格(免許)取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	4
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

① 課題

卒業生からの情報収集、卒業生がいる企業への訪問強化が課題。
また引き続き、退学率低減に対する取り組みの強化も必須。

② 今後の改善方策

HPに掲載されている卒業生向けの求人充実化。
新入生オリエンテーション&保護者会を行い退学率低減の為の意識付け(目標の明確化)
生徒と個人面談後、保護者様へ挨拶連絡をし協力体制を仰ぐ。
退学を申し出てきた段階で、報告書を作成し共有。

③ 特記事項

OJT 指導者の設置。
検定教科 WEEK の設定を実施。

④ 学校関係者評価委員会コメント

退学率低減について、入学・進級後個人面談をし、保護者との連携をとっているのは良い。
ただ、退学理由としては、目標喪失が多く、スタートアッププログラムからブライダルの意識付けがスタートし、自分に向いていないと感じ将来が不安になるケースもある。
クラスだけではなく、行事等も多い為、友人ができる環境を作っていく事が必要。

(5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	3
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
学生の生活環境への支援は行われているか	3
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

① 課題

生徒指導において、クラス担任が問題点を抱え込んでしまうケースが見受けられる。
先輩との繋がりを強化し、相談相手を多くの中なら選択できるようにする。

② 今後の改善方策

オリターという後輩に対する相談相手を生徒の中から選出し、学内に自由になんでも相談できる関係で生徒対応できる体制をしっかりと作る。

このことで、担任は一人で問題を抱え込まず、自クラスに関わる教員と同じように指導が出来る。また、担任と教科の教員との連携を密にするため、クラス会議を活用し、関わる多くの教員で情報共有・意見交換をすることで問題点を把握でき、指導に役立てる。

③ 特記事項

ふるさとサポート制度実施。

④ 学校関係者評価委員会コメント

オリターの選出からスタートアッププログラムまでは、オリターの存在が全員認識されているが、そのあとの後輩から先輩へ相談をしやすい環境を整える必要がある。

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

学外実習、インターンシップに対する生徒への意識付けが課題。

H29 年度より実施するブライダルコーディネーター科インターンシップへの参加企業の充実化が課題。

② 今後の改善方策

インターンシップ、学外実習に対しての意識付けの徹底し、インターンシップ前後での生徒の変化を見極め、一人ひとりをきめ細やかに指導することが必要。

BC 科生徒が希望をする職種のインターンシップ先を開拓する必要がある。

③ 特記事項

インターンシップカリキュラムの実施。

学外実習先アンケートの実施。

ハワイ研修の実施。

婚礼施設と同じ施設が整った実習室を設置。

④ 学校関係者評価委員会コメント

施設を利用して、行事への招待や授業参観を行う事で、どのような勉強をしているのか把握ができる為、実施すると良い。

入社をしてより即戦力となる様、卒業生の声をもっと聞き、授業に取り入れる必要がある。

(7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

競合校の新設に伴い、今後も難航が予想される。他行との差別化を図る為にも、より一層卒業生や企業との連携が必要である。

② 今後の改善方策

募集定員を確保する為、卒業生・企業からの情報を収集するだけにとどまらず、広く情報を公開し、本校に対する理解を深めてもらう。

③ 特記事項

体験入学・学校見学・ガイダンスの実施。

各種イベントの実施。

学納金は募集要項に明確に記載しており、基本的に追加の徴収はない。

④ 学校関係者評価委員会コメント

体験入学時、模擬披露宴や模擬挙式など、高校生も一緒に参加ができる体験内容にする必要がある。

体験入学に保護者の方にも積極的に参加をしてもらい、学校・職種について理解をしてほしい。

保護者の方は在校生の立ち居振る舞い・言葉遣い・表情などを良く見ている為、より生徒指導の徹底が必須。

キャストとして体験入学のお手伝いをしたことで、現場へ出てからもお客様の知りたい事を読み取ることが出来、コミュニケーション能力・実践力が身につく。

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

中長期事業計画は2012年に策定したが、当該計画は前倒しで終了しているため、今年度に更なる中長期計画を策定する必要性がある。

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

ホームページ上の公開については抜粋版が公開となっているが、今後は事業報告などの詳細な情報の公開が必要。

② 今後の改善方策

【中期計画】

今年度に新中期計画を策定する予定である。

【財務情報の公開】

今年度よりホームページ上の法人の事業報告書を公開する予定である。なお、当該報告書には財務情報にかかる詳細データを掲載する事となっている。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

なし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

なし

② 今後の改善方策

なし

③ 特記事項

なし

⑤ 学校関係者評価委員会コメント

なし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

① 課題

地域貢献活動の実施。三幸学園と企業や地域自治体が協同して、社会的な課題の解決に取り組む。
経済的理由で挙式ができないカップルのサポート。

② 今後の改善方策

授業の一環として、ボランティア活動の等も行いう事を検討。三幸学園のビジョンである「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」を実践。

また、結婚式に興味のある方を対象にフェアを実施し、まずはブライダルの専門学校に足を運び、理解をしてもらう。

③ 特記事項

なし

④ 学校関係者評価委員会コメント

経済的理由で挙式ができないカップルのサポートとして、フェアを実施したが集客に苦戦をしたため、集客方法の検討、フェア～挙式の認知度を高める必要がある。

挙式を行うにあたり、他校との違いとして、校内で実施をすることで、生徒自身が責任を持ち、考えて行動をしてほしい。

(11)国際交流(必要に応じて)

【評価項目】(評価=適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1)	評価
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	3
受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか	3
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	3
学内で適切な体制が整備されているか	3

① 課題

ブライダル業界においては、留学生が日本での就職先の確保が課題である。

② 今後の改善方策

日本での勉学を活かし、母国で就職できるよう職業支援を検討する。

③ 特記事項

海外のブライダル系学校の学生を対象に短期間研修を実施予定。

④ 学校関係者評価委員会コメント

留学生がいる事で、多様な考え方や捉え方の違いを知る事が出来る為、積極的に入学をさせてほしい。
海外のお客様は、チャペルではなく神社などで行う結婚式のニーズが高くなっている。
その為、接客に必要な英語が話せる環境としても留学生を積極的に入学させてほしい。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

人材育成方針が明文化されたが、生徒、卒業生、企業、保護者、地域への浸透が今後の課題である。
職業人としてその職種にあった考え方や、行動が出来る人材を育成し、世に輩出し続けることが専門学校としての社会的務めである。

今後は企業との繋がりをより一層深いものにし、優良学校としての認知を目指す。